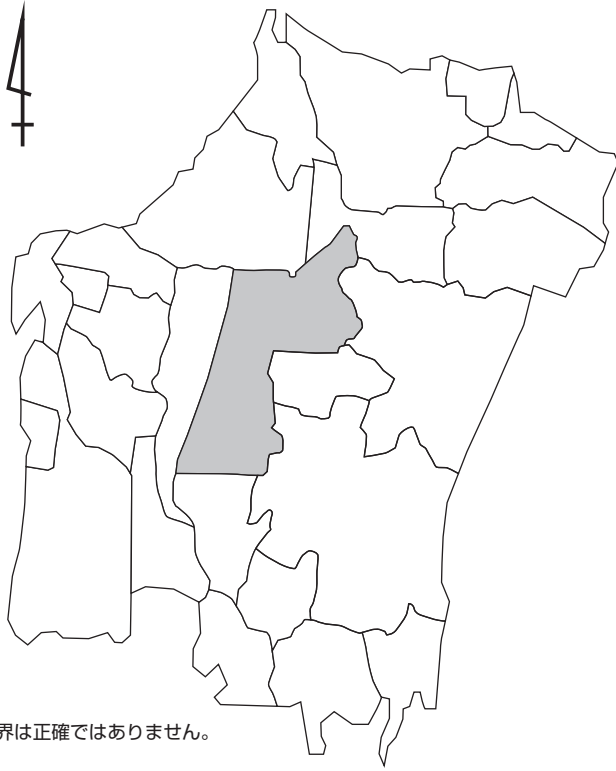


郷土かみのかわの歴史・文化財

上三川の地域と歴史 上蒲生

上蒲生は、町のほぼ中央部に位置し、田川低地とそれに続く台地からなります。地区のほぼ中央部を無名瀬川(※)が蛇行しながら南流しています。古来よりこの地は蒲生と呼ばれており、蒲生が現在の蒲生と下蒲生に分かれたのは、康暦年間(1379

〜1381)と伝えられています。江戸時代の初めは烏山藩領で、その後は幕府領となりました。江戸時代を通して上蒲生村と呼ばれ、天保年間(1830〜1844)には家数40戸と記録されています。江戸幕府の日光社参の際には、石橋宿の助郷役を務め



※大字界は正確ではありません。

ました。明治22年の町村合併により上三川村となりました。

さて、この地の地名となつて

いる「蒲生」の名の由来には、次の二つの説があります。ひとつは、無名瀬川に由来する説です。無名瀬川はその名のとおりの無名瀬がたくさんでできるほど蛇行しており、俗に「九十九曲がり」と呼ばれていました。そのため、その流域の多くは湿地帯で蒲が生い茂っており、そこから「蒲生」と名付けられたという説です。もうひとつは、

平安時代の武官・坂上田村麻呂にまつわる伝説です。坂上田村麻呂の蝦夷征伐の途中、当地にて戦勝を祈願し、神のお告げにより蒲の穂を背負つて戦つたところ大勝しました。そこで一字を建てて蒲生大明神と称し、地名を「蒲生」としたという説です。現在、蒲生大明神と称された蒲生神社は字宮の下前に鎮座しています。建長元(1249)年、横田頼業が上三川城を築いた際には、蒲生神社を崇敬し田畑50石を寄進したといわれます。

この上蒲生には前述の蒲生

神社という由緒ある神社があります。かつては願成寺という寺院もあったといわれています。その存在は字願成寺という地名からも推測できます。実際、願成寺地内の墓地には、僧侶の位階のひとつである「権大僧都」の銘が刻まれた石塔が残されています。また、「享保五庚子三月日 下野国願成寺」と刻まれた十九夜観音像も残されています。年号によ

り享保5(1720)年には存在していたことが確認できますが、いつ頃に建立されて、そしていつ頃に衰退していったのかは定かではありません。

数々の伝説の残るこの地を散策してみたいかがでしょうか。



坂上田村麻呂伝説の残る蒲生神社